

長期維持管理技術委員会 2020 年度第 1 回 議事要旨 (案)

日時：令和 2 年 11 月 16 日 (月) 14:45～17:00

場所：阪神高速道路 (株) 本社 8F 第 1・第 2 会議室

出席：委員長：宮川 豊章 (京都大学 特任教授)

委員：小林 潔司 (京都大学 特任教授)

森川 英典 (神戸大学大学院工学研究科 教授)

杉浦 邦征 (京都大学大学院工学研究科 教授)

議事：

1. 前回議事要旨 (案) の確認
2. 大規模更新事業 (京橋について)
3. 大規模更新事業 (湊川について)
4. 大規模修繕事業 (PC 桁の間詰対策について)
5. 点検一巡目結果の概要と今後の H-BMS について
6. その他

主な意見等

○大規模更新事業 (京橋について)

- ・ 架け替えは、垂れ下がりの原因究明が必要であるため、計測等が必要である。
- ・ 架け替えは耐震と連携が取れていることが必要である。

○大規模更新事業 (湊川について)

- ・ 中間橋脚の 5 径間案は、構造技術委員会の議論を経て決定したものである。ただし、既存の脚の剛性が高く、新たな中間脚とのバランスの問題があるため、動的応答解析時には振幅を少し大きくする等の注意が必要と考えられる。

○大規模修繕事業 (PC 桁の間詰対策について)

- ・ はく落のメカニズムが明確にされていないことには課題が残っている。はく落のメカニズムをある程度想定しておく必要がある。プレストレス低下と水平ひび割れが同時に起こっていたのか等を確認されたい。

○点検一巡結果の概要と今後の H-BMS について

- ・ 予防保全に軸足を移していく中で、優先順位の考え方を明確にする必要があり、データに基づいた整理が必要。そのため、損傷ベースでマネジメントを考える必要がある。
- ・ T2 に分類されている「未補修」には、ある意味では「予防保全」に分類されるものも含まれているとも考えられる。今後の点検では適切に分類することも課題であると考えられる。
- ・ 3D モデルであれば、1 つの基盤として防災や維持管理の情報を集約できる可能性がある。部材・部位をコーディングするなど、3D モデル化移行前に基本的な枠組みを検討する必要がある。
- ・ サイバーインフラモデルに時間軸を導入することが良いと考えられる。

— 了 —